



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (DC会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043(222)7207 番
FAX 043(224)7197 番

2001.3.17 No. 5281

2001春闘 その闘いの課題！ 全支部でストライキの準備体制を

今、二〇〇一年春闘の闘いの課題は、あまりにも明白である。それは、昨年の第二九回大会で決定された、第四四回定期委員会確認された、三大闘争方針Ⅱ一〇四七名闘争の勝利、「シニア」一外注化攻撃粉碎、JR総連解体一組織拡大の闘いに総決起することにある。そして春闘の最重要課題としては、貨物の労働者へベア・ゼロ攻撃を断固許さないことにある。

1 シニア一外注化攻撃粉碎へ総力をあげて決起しよう！

何よりも、闘いの獲得課題は、この四月一日にもJR東日本が強行しようとしている、外注化攻撃がある。この攻撃は、すでに明らかにしてきたように、「シニア制度」と一体となったものだ。

この鉄道会社としてのこれまでのあり方を根本的に転換させる、鉄道事業の枠をこえた、攻撃の本質は、JR東日本が昨年一月に発表した中期経営構想Ⅱ「ニューフロンティアⅡ」にあますところなく描きだされている。その中では、鉄道事業は第三に転落し、駅に人を運ぶ手段にさえすぎず、「ステーションネットワーク」という形の営利優先政策が第一義となり、IT技術を看板にして、「グローバル化」と「株主価値重視経営」なる考え方が一切の前提にすえられ、連結決算方式の導入により、「冷徹な優勝劣敗の市場原

理」という、弱肉強食の環境に追い込むというものだ。

2 ニューフロンティアⅡ 第二の分割民営化攻撃許すな

その中心軸をなす攻撃が「シニア」一外注化攻撃であり、五年間という短期間で一万人のJRで働く労働者をリストラし、主要保守部門Ⅱ施設・電気などの保守関係の業種については、一年間で外注化の対象としようとしている。

年金法の改悪を逆手にとり、企業も負うべき責務を一切放棄して、六〇歳以上に到達した労働者を再試験という形で、さらに差別・選別するという、このやり方ひとつをとっても、決して許されるものではない。

3 シニア制度その差別の実態

日刊五二七八号でも明らかにしてきたように、この「シニア制度」の試験においても、露骨な組合差別の実態が明らかになっている。何よりも制度そのものにより、働きたくても働けない制度であることもまた、その辞退者の数が示しているのだ。

まさに高齢者切り捨ての制度であることが、ますます明らかとなっている。まさに「シニア制度」とは、差別・選別の道具であり、社会的責任を放棄し、年金改悪を悪用し、外注化攻撃に手をつけるという、とんでもない制度といっても過言ではないのだ。

一方、われわれは、当該の三

名の仲間が現在、地労委闘争に立ち上がり、この二月二〇日の審問において、JR東日本に対して、「再就職先の提示」という要望を獲得している。

4 JRで働くすべての労働者を直撃する外注化攻撃

さらに言えばこの、「シニア」一外注化攻撃は、現在、JRで働く労働者総体を直撃するものであることを肝に命じなければならぬ。外注化によって職場を奪われ、運転は一層危機にたち、その過程で賃金や雇用、労働条件を根本的に破壊する攻撃が襲いかかるということだ。施設関係の外注化攻撃などは、すでに三年後には社員を外注先会社に転籍するということまでが語られている。こうした攻撃が組合つぶし、団結破壊と一体で進むことは間違いない。絶対に許してはならない。今春闘での主要な闘いの課題は、この「シニア制度」一鉄道業務の全面的な外注化阻止一運転保安確立に向けた闘いだ。

5 貨物ベアゼロ攻撃許すな

今、二〇〇一年春闘の闘いの何よりも獲得すべき課題は、大幅賃上げ獲得と、貨物生活一時金の獲得にある。この闘いこそ、今春闘における軸をなす闘いだ。

「分割・民営化」の矛盾を最も端的にあらわしている、貨物の労働者への超低価格差回答打破、貨物ベア・ゼロ攻撃粉碎の闘いこそ、「分割・民営化」体制その

ものを直撃する闘いだ。

この間もJR貨物は、新フレイト二一―貨物六千人体制のための合理化を強行している。さらに貨物版「シニア制度」についても提案が行われた。ベア・ゼロ、期末手当での格差にとどまらず、諸手当の削減の強行など、まさに「総額人件費の抑制」攻撃に他ならない。今、春闘の闘いの課題とは、貨物の労働者の怒りを自らのものとして結果し、「生活改善一時金」を断固獲得し、格差回答を打破することにある。

6 一〇四七名の解雇撤回、強制配転者の原職復帰を始めとした不当労働行為の根絶を

そして、今、二〇〇一年春闘は、闘いを通して、組織拡大の実を獲得していくことにある。何よりも、たたかう春闘の復権を通して、日本労働運動総体を闘う側にシフトし、社会保障制度にまで手をつけてきた攻撃に、労働者の怒りを結果させることにある。

この闘いを通して、国鉄労働運動の大いなる展望を切りひらき、現在の全社会的に展開されている大リストラ攻撃の矢面にたつ労働者に、一〇四七名闘争のもつ意義と展望を指し示すものなのだ。

強制配転者の原職復帰の闘いも、この闘いの中からさらなる風穴をあけていこうではないか。二〇〇一年春闘に総決起しよう！三大闘争の勝利へ向け、組織の総力をあげて闘い抜こう！